課題番号15

秋まき小麦の安定確収栽培の確立

～　プロジェクト活動を通した課題解決～

対象：南幌町若手農業者（南幌４Ｈクラブ）１２名

１　活動の背景

南幌４Ｈクラブは自己研鑽と仲間との親睦を通じて、地域の活力として寄与することを目的に活動している。

令和２年から小麦の学習活動が始まり秋まき小麦の安定確収を実現するため、追肥体系や病害虫防除等の改善の実施・検証をしてきた。

令和７年は、昨年クラブ員が各々の課題としてあげた項目について、プロジェクト活動の一年間の栽培・調査を通して改善に取り組んだ。

２　活動の経過

目標事項：**個別課題の改善**
（個別改善項目実施人数　現況：7名→目標：11名）

R6年の栽培から考察したクラブ員の個別改善項目（９名）

A：は種量の調整・越冬前茎数の管理
B：縞萎縮病対策
C：倒伏軽減のための追肥体系の改善
D：雑草・病害対策（R5)
E：遅まきの場合の追肥体系の検討
F：追肥回数の増加（2回→3回）
G：茎数に基づく追肥、基幹防除の徹底
H：ケイ酸資材の投入継続・窒素量の見直し
Ｉ：遅まき時の収量確保対策（は種量・追肥量）

※Ｄ氏はR6年基盤整備のため秋まき小麦作付ほ場はなし

＜若手農業者による活動＞

月日	内容
4/17	起生期の生育調査
5/9	幼穂形成期の生育調査
6/13	出穂期の生育調査
7/9	成熟期の生育調査
7/14	収量調査（サンプル採取）
8/7	収量調査（脱穀）
11/14	越冬前の生育調査
11～12月	調査結果の整理と検討 町内発表会の準備
12/12	町内発表会

写真1　生育調査中のクラブ員

写真2　Ｒ７年町内発表会

３　成果の具体的内容

クラブ員の個別課題取組結果（実施者9名）

	R6の栽培からの個別改善項目	実施
A	は種量の調整・越冬前茎数の管理	○
B	縞萎縮病対策	○
C	越冬前茎数の管理・ほ場の排水改善	○
D	雑草・病害対策(R5)	○
E	は種が遅くなったときの追肥体系の検討	△
F	追肥回数の増加（2回→3回）	○
G	基幹防除の徹底	○
H	ケイ酸資材の投入継続・窒素量の見直し	○
I	遅まき時の収量確保策（は種量・追肥量）	○

目標事項：**個別課題の改善**
　個別改善項目実施人数　現況：7名→目標：11名→実績：8名

クラブ員の声

B氏

前作と天候の関係から10月中旬には種した（遅まき）
→ **は種量を増やしたことで茎数をカバーできた**！

G氏

起生期茎数が多かったので追肥時期を遅らせた
→ **茎数が理想の本数に落ち着いた。**
幼形期・止葉期の追肥も葉色から判断して遅らせてみてもよかったかも？

C氏

Ｒ６年に倒伏対策と千粒重確保のため、後半に重点的に追肥を実施
→　Ｒ７年も同様に**穂数を確保できた！**

Ｒ７年の栽培から考察したクラブ員の課題

Ｒ７年は春先の天候に恵まれず、改善を実施したもののうまく結果につながらなかったクラブ員もみられた。Ｒ７年の栽培について各々の考察から課題を抽出した結果、①「病害対策」、②「追肥の検討」、③「収量・歩留まりの向上」など大きく３つに分けられた。

４　今後の課題と対応

引き続きプロジェクト活動や学習の支援を行う。クラブ員個々の課題の改善を通して、地域の若手農業者の技術力・資質向上を目指す。